

2021 年度第 5 回 BLCJ 在り方・運用合同部会

議事録(案)

日時：令和 3 年 12 月 22 日(水)10:00～11:30

場所：Teams によるオンライン会議

資料：

- 【在・運 4-0】 議事次第
- 【在・運 4-1】 在り方部会・運用部会組合員リスト
- 【在・運 4-2】 第 3 回在り方・運用合同部会議事録
- 【在・運 4-3】 第 7 回建築 BIM 推進会議の概要報告
- 【在・運 4-4】 部会 2 の 2021 年度活動

出席者：

氏名	所属	氏名	所属
安田 幸一	東京工業大学/在り方部会長	関根 悦子	(株)ノーリツ
山本 康友	東京都立大学/運用部会長	小柴 慎一	パナソニック(株)
片山 高嗣	応用技術(株)	上野 賢	パナソニック(株)
横山 慎哉	(株)大塚商会	渡邊 純一	パナソニック(株)
鬼頭 篤子	(株)大林組	山下 純一	buildingSmart Japan
山本 愛	鹿島建設(株)	飯島 勇	福井コンピュータアーキテクト(株)
村田 靖彦	キャデナス・ウェブ・ツー・キャド(株)	板谷 敏正	プロパティデータバンク(株)
長田 公秀	(株)熊谷組	香月 創星	丸紅アークログ(株)
田中 武	(株)久米設計	繁戸 和幸	(株)安井建築設計事務所/(一社)日本建築士事務所協会連合会
岡村 徹	佐藤工業(株)	高倉 智志	(公社)ロングライフビル推進協会
邊見 一孝	東急建設(株)	寺本 英治	BIM ライブラリ技術研究組合
吉田 哲	(株)日建設計	山口 浩史	BIM ライブラリ技術研究組合
越中谷光太郎	日本建築仕上材工業会	山中 隆	BIM ライブラリ技術研究組合
楠山 登喜雄	(一社)日本建築積算事務所協会	渋谷 玲	BIM ライブラリ技術研究組合
野口 順二	日本メックス(株)	福島 孝治	BIM ライブラリ技術研究組合
小林 伸樹	日本郵政(株)		

議事：

安田：（開会挨拶）

事務局：（【資料 在・運 4-2】議事録確認）

1. 第7回建築 BIM 推進会議の報告

事務局：（【資料 在・運 4-3】に基づき第7回建築 BIM 推進会議の内容を報告）

安田： 今年度の目玉として中小事業者型を取り上げ、小泉先生を座長に BIM の裾野を広げる意味で、30名以下事務所にもメリットがあることを検証している。

教育との一貫のシステムも重要になる。様々な分野で検証を行うが全部うまくいくわけではなく、その場合でも正直に判定・報告して頂くことが有用という意見交換がなされた。

日建連の専門工事業者の取り組みでは、他の社会システムも別の要素が活動して検証している。専門工事業者が設計側に労力を提供していることへの対価の議論もある。

2. 在り方・運用合同部会活動概要

事務局：（【資料 在・運 4-4】に基づき、部会 2・BLCJ2021 年度活動について報告）

安田： ライブラリは建築・設備ともに作るのか再確認したい。

福島： 建築・設備で形態は異なる可能性はあるが、作成する方向である。

安田： ビジネスモデルについて、具体化のたたき台はあるか。また、どのようなスケジュール感か。

福島： ビジネスモデル WG 内では具体的なビジネスの話はしていない。当初予定では BLCJ の組織変更を検討するのが来年度末となる。今年度末までに説明し、6月総会までに作り上げたい。

ビジネスの収支までは難しいが、ライブラリの形態は確定したい。

安田： 健全な運営はしていかなければならない。

3. その他意見交換

野口： ご説明有難うございました。多様な活動をしているので決められないと思うが、ライブラリの具体化目標はいつ頃か、現時点でのイメージは。

寺本： コンセプトを固め、技術的な制作作業に1年にかかる。その後の資金の在り方が問題になってくるため、時期が延びている。

野口： 2023, 24 年度のイメージと受け取る。

楠山： 早く成果を出したいが、範囲が広がっていき急に成果が出る性格のものではない。毎月更新していかないと実態と合わなくなるケースもある。

維持にも費用が掛かるが、ユーザーから回収しようとすると思われなくなることもある。儲けるのは難しいとあったが、儲けるべきでは無いと思う。インターナショナルかつ日本語とも共通言語を整えようとしている。国や国交省から資金を援助して普及する言葉目的で、そのものの利用は無償であるべき。照会やマニュアル、教育など補助的なモノを有料化するという活動は出来ると思う。

安田： 組織運営のための基本的な資金は国が出してくれるのがベストだが、健全な運営のための組織運営は必要。イギリスだとライブラリ更新のためにオペレーターが30人作業している状況を見た。そういう状況を早めに見据えるべき。

寺本： ご指摘ありがとうございます。ここでは標準化された情報インフラの価値を理解していただけるように活動しなければならない。メリットを具体的な数値で示せれば協力も大きくなる。

日本はデジタル化が遅れている中小にまで 広めるための活動と負担とのバランスをどう図るか。NBSのように別途基本となる事業の柱がある中で形になれば良いと思う。ご意見を頂きながら模索をしていく。

楠山： 結論は出ないと思うが頑張って活動して欲しい。

安田： 貴重なご意見ありがとうございます。

次回以降日程：

第5回 令和4年2月22日(火)15:00~16:30